掛川市立城東中学校区小中一貫校基本構想・基本計画【概要版】

掛川市学校再編計画（令和５年８月）に基づき、掛川市立城東中学校区内における土方小学校、佐東小学校、中小学校、城東中学校について、義務教育９年間の系統性・連続性を考慮した小中一貫教育を推進するため、４校を統合した小中一貫校を整備します。

令和６年度から「城東学園小中一貫校整備検討委員会」を設置し、基本構想・基本計画を策定しました。

城東学園の状況

城東学園小中一貫教育グランドデザイン

学園内の関係者で検討し、作り上げた学園で目指す子ども像、その実現を図るための方策、組織的な取り組みを示した基本構想です。

現在は、グランドデザインに基づく教育を推進しています。

小中一貫教育グランドデザイン

「城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども」

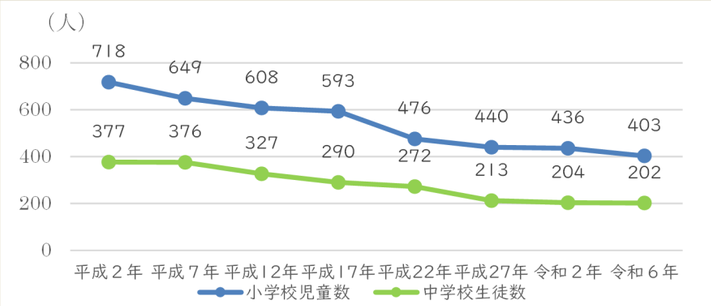
現状の課題

児童生徒数の減少や校舎の老朽化、子どもたち・学校施設を取り巻く状況は大きく変化しています。

児童生徒数の状況

城東学園の児童生徒数をみると、小学校児童数及び中学校生徒数はともに、平成２年度以降年々減少しています。

今後ますます子どもの数は減少し、令和12年度では、令和６年度から150人程度少ない、合計で444人程度の児童生徒数となることが予想されます。



施設の老朽化

城東学園の各小中学校の校舎等は昭和40～50年代にかけて整備された施設が多く老朽化が進んでいます。特に、土方小学校の校舎は、市内で最も古く建築から60年が経過し、経年による劣化が心配されます。

学校名	校舎		体育館	
	建築年度	経過年数	建築年度	経過年数
城東中学校	昭和49	49	昭和51	47
土方小学校	昭和38	60	昭和51	47
佐東小学校	昭和56	42	昭和52	46
中小学校	昭和54	44	昭和54	44

令和５年度時点

小中一貫校に適した学校施設は？

城東学園は、平成29年12月に「城東学園新たな学園づくり地域検討委員会」を設置し、変化する状況をふまえた７つの視点をもって、小中一貫教育にふさわしい新たな学園づくりの検討を行いました。

7つの視点

1　城東学園の小中一貫教育研究	2　国や近隣市町の動向
3　校舎の老朽化	4　学校の施設形態
5　児童生徒数の推移	6　１学年複数学級を有する学校への視察
7　掛川市の公共施設マネジメント	

【提言】～小中一貫教育に適した城東学園の学校施設の在り方について～

「城東学園の地域性や歴史・現状を踏まえ、小中一貫教育を推進するためにふさわしい学校の在り方については、**『施設一体型』**または**『施設隣接型』**の学校の整備が望ましい。」と提言されました。

基本構想

検討委員会・ワークショップをふまえ、整備コンセプト・基本方針等を策定しました。

施設整備のコンセプト

地域とともに　「未来を創る子ども」を育む
笑顔とわくわくがいっぱいの　みんなの学校

教職員だけではなく、地域の協力や地域の資源を大切に、一緒に未来を創る子どもたちを育む学校にすること。また、児童・生徒が学校の中で生き生きと楽しく、探究心を持って、個別最適な学びや協働的な学びと仲間とのつながりの中で成長できる学校にする、という意味が込められています。

基本方針

１学校全体で個別最適な学びから協働的な学びまで柔軟に学習できる空間づくり
- 児童生徒の個性に合わせて学びを深める個別最適な学びの場づくり
- コミュニケーションを大切にした協働的な学びの場づくり
- ICT 教育に対応した柔軟な学びの場づくり
- 充実した居心地の良い学校図書館（ラーニングセンター）の整備
- 児童生徒の成長にあった多様な運動が楽しめる運動空間の整備

２一人一人の児童生徒にとって居場所となる落ち着きのある生活空間づくり
- 多様な児童生徒にとって、誰もが居場所となる空間づくり
- 小中学校の児童生徒が異年齢で交流できる空間づくり
- 放課後における児童の安全な居場所づくり
- 空調環境等の充実による快適な校内環境の整備
- 多様性に配慮したトイレ・更衣室の整備
- バリアフリー・ユニバーサルデザインへの配慮

３児童生徒等の安全・安心に配慮した環境づくり
- 通学における安全確保（通学路、通学手段、駐車場の整備）
- 校内セキュリティの確保
- 校内植栽の管理
- 児童生徒の保護者と学校との円滑な情報共有ができる仕組みづくり
- 地域防災拠点となる施設整備

４教職員が居心地よく、快適に働くことのできる環境づくり
- 働きやすくゆとりある快適な職場環境の整備
- 諸室の適正配置、デジタル対応等、仕事の効率化に配慮した環境づくり
- 児童生徒との交流を生み、学びから生活まで相談ができる環境づくり
- 小中学校の教職員が交流を生む空間づくり

５地域とつながり、地域の学びや交流を育む共創空間づくり
- 地域とつながる交流空間の創出
- 地域の学びの場として特別教室等の活用に配慮した施設整備
- 公共施設等の複合化・共用化の推進
- 学校と地域の連携・協働をより緊密にするための拠点の創出

６城東の歴史と風土を感じることができる施設づくり
- 周辺環境との調和に配慮した施設
- 城東の風土を活かした屋外学習空間の創出
- 地域の歴史を学べる場の創出
- 自然エネルギーの活用や環境に配慮した施設

基本計画

建設予定地

城東中学校、東京女子医科大学跡地、佐東小学校+佐東幼稚園跡地を比較検討した結果、建設地は**「東京女子医科大学跡地」**に決定しました。

敷地の選定理由

- 敷地面積は 34,120 ㎡で、十分な広さがある。敷地内の地盤面の高低差を考慮し、学校施設を地形に合わせながら配置すれば、利用できる面積を確保できる。
- 現状の学校生活に大きな影響を与えることがなく、小中一貫校の整備が可能である。仮設校舎を建設しなくても良い。
- 城東中学校区の中央部に位置しているため偏りが無く、土方小、佐東小、中小の小学校区から通学・来校しやすい。
- 建設に係る制約条件が少ないため、施設整備に関する検討が比較的容易であり、事業スケジュールと事業費の見通しが立てやすい。

敷地条件の課題図（建設地：東京女子医科大学跡）

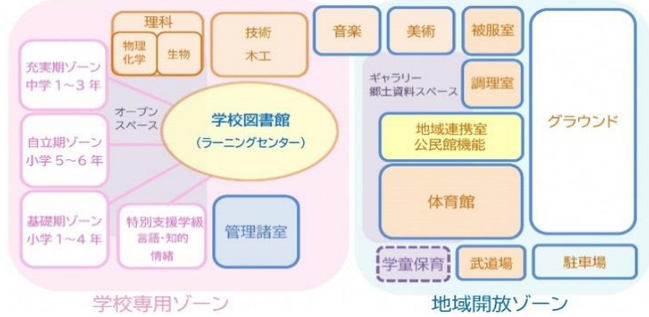
配置計画・動線等計画の考え方

① 効率的な動線･配置を考慮した計画

② 現況地盤面を考慮した計画

③ 周辺景観や環境に配慮した計画

【城東学園小中一貫校の機能構成イメージ】



※本図は機能構成のイメージであり、平面図ではありません。
平面計画等は今後の基本設計段階において検討します。

スケジュール（案）

事業内容	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
設計	建築基本設計・実施設計	造成設計				開校
開発許可 造成工事		開発許可	造成工事			
新校舎等 建設工事				建設工事		
開校準備	検討委員会		（仮称）開校準備委員会			

検討委員会は基本設計段階においても継続し、配置計画や平面設計等の確認・検討を行います。

通学について

小中一貫校へ再編することで、学区が広がり通学距離が伸びる、新たなルートで通学することなどから、検討委員会においても通学に関する課題等が指摘されました。

通学に関する課題・要望等

- 学区が拡大することで長距離を通学する児童の増加が見込まれる。特に小学校低学年の児童の負担が心配される。
- 雨天時等は保護者が送迎することも多い。保護者の送迎があることを前提とした学校施設の配置を検討していただきたい。
- こども園の送迎の車と一貫校への送迎の車で渋滞等の発生が想定される。それによる徒歩通学者の安全が心配される。
- 中学校部活動の地域展開も見据え、スクールバスを運行するのであれば、市のバスとして登下校以外の用途で活用することを検討していただきたい。
- 新たに通学路になる道路については、子どもたちが安全に通えるように整備をして欲しい。

今後の対応方針

- 学校再編後の通学支援（スクールバスや路線バスを活用した通学）の基準緩和について検討しています。
- 通学路は、どのルートを通学路とするのかについて保護者や地域の皆さんと協議を行います。
- 新たな通学路について、安全上の課題のある個所について抽出し、道路管理者や公安委員会（警察）に整備を要望していきます。

発行元　掛川市教育委員会 教育政策課 学校再編室　〒436-8650　掛川市長谷一丁目1番地の1
TEL：0537-21-1155

★基本構想・基本計画の本編は右の QR コードから市のホームページでご覧いただけます。